

大学との連携を推進

新潟大学に寄附講座を設置しました

※寄附講座とは・・・大学における教育・研究の豊富化、活性化を図ることを目的として、自治体等からの寄附金で研究部門や講座等を設置・運営する制度。市は、教育・研究成果を活用して施策の専門性を高めます。

市は、大学の持つ知的・人的資源等を活用して、活力ある地域社会づくりを進めるとともに、複雑・多様化する地域の課題に適切に対応するため、さまざまな大学との連携を推進しています。

特に、地域の人材・知識が集積する知の拠点である新潟大学とは、平成20年に包括連携協定を締結し、総合的な相互協力関係が構築されていることから、平成23年度に寄附講座「自然再生学講座 環境・経済好循環分野」を設置することとしましたので、その概要を市民の皆さんにご報告します。

寄附講座

— 自然再生学講座 環境・経済好循環分野 —

市は、「佐渡市将来ビジョン」が目指す、「佐渡の豊かな自然の恵みを活かした産業おこし」と「佐渡の魅力を活かした賑わいの島づくり」に向けた取組を推進するため、新潟大学 朱鷺・自然再生学研究センター（以下「センター」という。）に寄附講座「自然再生学講座 環境・経済好循環分野」を5月1日に設置しました。

センターでは、農林水産業を軸とした自然再生活動と地域経済が好循環する「環境経済システムの構築」に向けた教育・研究に取り組むとともに、新潟大学では、寄附講座の教育・研究成果をもとに、国際的教育・研究拠点となる「自然再生学研究所」の設置を目指します。



5月25日、市役所において共同記者会見が行われ、報道関係者等が多数出席しました。【写真：共同記者会見終了後、固く握手を交わす高野市長、新潟大学下條学長(右)、朱鷺・自然再生学研究センター山岸センター長(中央)】

寄附講座の概要

設置の目的

寄附講座は、生物多様性に基づいた農林水産業の確立およびその振興に関する研究を行うとともに、その研究成果の普及啓発を行い、トキをシンボルとした自然再生学の確立および経済と環境の好循環の実現に寄与することを目的とする。

設置期間

平成23年5月1日

～平成26年3月31日

主な研究内容

- ① 生物多様性に配慮した環境保全型農法の検討とその普及啓発に関する調査研究
- ② 農林水産物の品質の安定性の評価（水稲の食味評価等）
- ③ 環境保全型農業に基づく農林水産物の市場形成と拡大に関する調査研究（市場流通実態、市場評価、消費分析、国際販売戦略等）
- ④ ①から③までを統合した、農地の順応的管理システムの検証
- ⑤ ①から④までの研究成果の公表、学生を対象とした教育および市民への普及啓発
- ⑥ その他、自然再生学の確立および環境と経済の好循環の実現に寄与する教育研究

新潟大学における将来構想の主な内容

- 2012（平成24）年
- 学部生や大学院生を対象とした講座等の開設
- 2015（平成27）年
- 自然再生学研究所の設置（学内共同利用施設）
- 大学院自然再生学専攻の設置
- 2020（平成32）年
- 自然再生学研究所の改組
- ・ 国際的教育・研究拠点化（中国・韓国・ロシア）
- ・ 国内における教育・研究拠点化

